



賀露の砂丘地



昭和 27(1952)年 米軍撮影

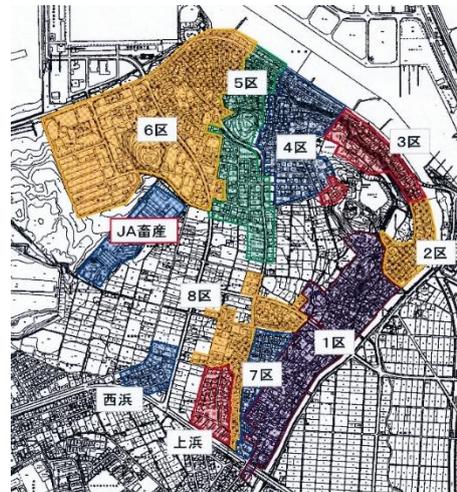


平成 19(2007)年以降撮影 国土地理院

砂丘 1区 坂口俊雄さん(大正10年生まれ)の話

昭和2、3年ごろ、今の7区より西側一帯の半分くらいは小松林であったが、養蚕が盛んになり桑畑に変わったものの、戦時となり福田軽飛行機会社、日産工場が出来て社宅や住宅が多くなった。また、8区の西側も一帯が桑畑であった。

さらに、奥の西側は雨量の多い時は土地が低いため排水がきかず、甘藷や野菜も雨の多い年は、ほとんど作物の収穫がなかった。この一帯を水溜まりとも言っていた。今の経済連種鶏場に当たる横一帯は、大きな松もあった。ここを越えて海の方が高地のためその水の下がり、くぼみになっていたのだろう。その辺の深い所には、鮒や鯉がいて、多くではないが捕ったことがある。



賀露8区の今昔 「鳥取市老人クラブ連合会15周年記念誌」昭和54年度より

わが町は戦後、賀露砂丘地帯の一端にできた市営住宅12戸から始まり、昭和23年3月、60数世帯を8区と名づけた。当初、各戸に庭木などなくわずかの土地にでも食べられるものを作りたい時代であったが、庭続きともいえる防風林を子供たちは駆けまわり、夏は松陰にご飯を敷いて勉強もした。冬は雪投げ、そりに興じ、旧砲台跡の米倉へスキーの足をのばすこともできた。現行の飛行場の叢で虫を採り、模型飛行機を飛ばすなど、絶好の遊び場に恵まれていたものである。